

福音新聞

마태 25:14~30

그리스도를 머리로한 교회
이기에 언제나 새역사의근
원이 되어져야 하는 것입
니다 그러한 의미에서 어
러분 선교하는 제반사에서
도 제일 되셔야겠습니다
조국을 섬기고 모국교회
와 유대를 공고히 하는일
에 있어서도 제일이여 하
겠습니다 여러분들이 우기
하고있는 일본국을 위하여
서도 그리스도의 정신으로
섬기여 나가시는 일에 있
어서도 제일 이어야겠습니
다 에큐메니칼한 사업과
운동에도 국호를 끝이는데
아니라 실제로 세계교회에
공헌하고 온 인류를 섬기
는 종의 직책에 있어서도
제일이여야 하겠습니다

1969년 도 정 초 사 경 회

「행동으로 말하라」—관 서 지 방

중 부 지 방—「사랑으로 解決한다」

관서지방에서는 신년도정 초사경회를 예년과는 달리 본지방회 산하에 있는 교회가 전부 참가 할수있는 프로그램을 가졌다

관서지방회 산하 17개교회를 5구역으로 나누어 구역 단위로 사경회를 개최하였고 각 교회가 하로식은 그 교회신도를 중심으로 하여 오전에는 성경연구 오후에는 각교회의 신도대표의 발제와 토론과 찬목회 등 그리고 밤에는 한국에서 일본에 유학차로 온 목사님들을 강사로 모시고 집회를 가졌다 그리고 첫주일밤(5일)에는 각구역별로 연합예배를 보았다

※제일구역 神戸교회 西宮교회 武庫川교회였고 성경공부강사에 윤종은 최경식 김정찬 각 목사였으며 토론발제자에 전규장집사 김길웅집사였고 저녁집회 강사에 이근집목사 백상근목사였다 성경연구와 토론회에 참가자수 연150명 저녁집회에 연 300명이었다

※제이구역 北部교회 川西교회 新儀교회 京都교회였다(新儀 京都교회는 계속 3일간 하였고 주강사는 박석규목사였다) 성경공부강사 이병구 박석규였고 토론발

제자에 이소용집사 김창엽 장로 임학주장로 허천오집사였다 저녁집회강사에 이종헌 배기환 이근집 박석규 각 목사였다 참가자수 성경공부와 토론회에 200명 저녁집회에 450명였다

※제삼구역 枚岡교회 布施교회 大阪교회(築港교회)였다 성경공부강사에 기원형 이창우 각목사였고 토론 발제자에 장덕일집사

강화익집사 김갑선집사 등이었고 저녁집회의 강사에 김원치목사 기원형목사였다 참가자수는 성경공부와 토론회에 연 150명 저녁집회에 연 250명였다

※제사구역 堺교회 西成교회 平野교회(春木교회)였다 성경공부강사에 정인수 목사 김진수목사 김원치목사였고 토론발제자에 이성기집사 김성기집사 장우기

집사 최연주집사 민중삼장로 양건목집사였다 저녁집회 강사에 김진수 목사와 정인수목사였다 참가자수는 성경공부와 토론회에 연130명 저녁집회에 연370명이었다

※제오구역 水島교회(広島三次교회)는 거리상 단독행사가 되어 김형식목사를 강사로 일박이일일의 집회를 가졌다

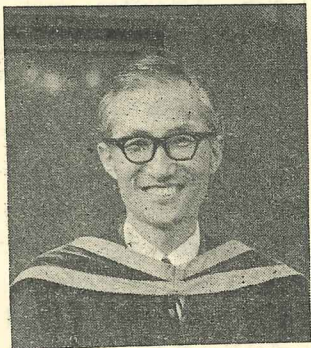
금년 정초 사경회는 본지방교회 온신도가 거이참가하였는데 과거에 보지 못한 성과가 있었다고 본다 그러나 유감스러운것은 시일이 짧은것이였다 정초에 가진 결집과 계획이 주안에서 다 이루어 질것을 기도하면서 이 해를 보람있게 지내기 바란다

일을 하고있다 과거 이교회와 우리교회 관계를 약간 언급하면서 선교60주년 기념에 관계되는 이야기를 할수있는 시간이 있었다 일본 기독교단 한국 예수교 장로회 양 총회장 사 이에 끼어 인사를 드릴수 있었다 금년 총회장은 과거 일본에 선교사로 와있던 스미쓰박사가 선출되였다 그리고 선교부 공동책임 총무로일하는 터니박사는 나와 학생운동을 같이해온 친구이다 어분들의 이해로 앞으로 새로운 선교관계가 열리는것이 기대된다

5월 말 나와 아내는 카나다장로회 여선교회 총회에 출석하여 인사와 보고를 드렸는데 앞으로 유치원 설치등 기독교 교육에 대한 계속 원조를 약속받았다 6월5일부터 열린 카나다 장로회 제94회 총회에 출석했다 금년총회장으로는 1956년 시모노세끼총회시 방문했던 매카이박사가 선출되였다 다음날 저녁은 해외선교의 저녁였다 이 시간이 중요한 때였다 나에게 25분의 시간이 주어졌다 오랫동안 준비해왔던 선교60주년에 관계되는 우리들의 포부를 그리스도를 따라 세상으로라는 주제와 같이 역설하고 카나다교회 대표로 총회장을 기념식전에 초청한다는 말로 끝 마쳤을때 총대 전원이 기립하여 박수로 지지해 주었다

카 나 다 방 문 기 <2>

이 인 하



학위 수여식이 끝나자 아내와 같이 동부 노바스코샤주에서 열린 두 노회의 선교대회에 참여했다

이 지방은 1956년 유학시절에 한번 찾아온곳이다 당시 소년 캠프에서 지도한 소년가운데서 훌륭한 목사된 사람을 세사람이나 만났다 노회가 세운 계획대로 다녔반을 나누어 각 교회를 순회하면서 장로 집사 청년회 부인회 주일학교 교사회 기타 여러 종류의 모임에 가서 선교상황을 이야기 해 준다 내가 속한 반에는 인도에서의 선교사와 대서양지구를 맡은 국내선교 책임자와 세 사람이 었다 이선교대회에 출석하여 배운점은 카나다교회의 선교열은 이런 선교교육을 계속하는 데서 온다는 것이였다 나는 우리총회의 선교60주년 기념행사를 중심으로 소개하면서 앞으로우리들도 선교교육에 힘을 씀으로 반는 교회에서 주는 교회로 성장 하여야 되겠다고 절실히 느껴졌다 이 지방에

서 우리선교사 베비스목사의 어머니와 안더선목사의 부인 어머니와 친척을 만나서 소식을 전할수 있었음은 다행이였다 이분들도 우리와 같이 자식을 그리워하는 심정은 같고 그러한 육신의 정을 끊고 멀리 일본에 와서 소수자인 재일 한국인들에게 전도하는 선교사의 일들이 더욱이 고마웠다

교회와 사회 회의에서

5월말 몬트리올 대학에서 카나다교회 역사에서 새페이지를 기록할 회의가 4일 동안 개최되었는데 참석했다 즉 카나다 신 구 양교도들 6백명이 모여 그리스도인의 양심과 빈곤이라는 주제를 걸어 놓고 오늘의 카나다 사회와 세계에 있어서의 생활의 격차에 관한 문제를 진지하게 다루었다 오늘 사회에 있어서의 빈곤을 기독교의 공동책임으로 느끼고 거기에 있는 문제점을 지적하면서 세계의 정치적 경제적 체제의 모순을 밝히고 기독교자의 증거를 그런영역에서도 넓히자는 제의가 있었다 이 모임의 의의는 그 회의 내용도 그렇거니와 신 구 양교도가 처음 대 규모로 모였다는데 있었다 목사 신부 각계의신도들이 비록 교리적인 이해는 달리할지라도 공동의 문제를 앞에놓고 쟁점할때

무엇인지 모르게 그리스도안에서의 사랑을 서로 느낄수 있었다

두 장로회총회에 출석

동경을 떠나기 3일전 미국연합장로회에 재일대한국교회를 대표하여 참석해달라는 전보를 받았다 총회장 오윤태목사와 수의하여 초청을 받기로 하여 떠났다 카나다 동부에서 선교대회에 출석하고 있는동안 3일간만 그지역 책임을 벗어나서 비행기로 5시간되는 미국 중부도시 미네아폴리스에서 열린 연합장로회 180회 총회에 참석했다 연합장로회는 신도수가 3백30만인 세계에서 제일 큰 장로회다 총대수도 천명 가까웠으며 규모가큰

各家庭に

聖句入り日めくりを!

美 装 呈 「오늘의 양식」

(韓・日語)

¥ 200

各教会で販売中

在日大韓基督教会總會文書委員会 發行

중부지방 사경회

중부지방 주체의 사경회는 정월 2일부터 나고야교회에서 5일까지 서울대현교회 이기덕 목사를 모시고 거행했다 특별음악지도에는 선현선생님이 봉사해 주었다 오전의 두시간은 성경공부 예배소서를 배웠고 아침 여섯시 반 부터 일곱시 반까지는 새벽기도회 밤 일곱시 부터는 강연회가 있었다 마지막 날 오후 일 밤에배는 중부지방 합동예배로 보았는데 백명이상의 모임 이었고 강연은 사랑으로 모든걸을 해결한다는말씀이었고 4일동안 중에 가장 은혜많은 클라임막스를 이루었다 새벽 출석은 평균 25명 성경공부는 40명 강연회는 70명이었다

III 女性シリーズ (1) III

主婦とは

主婦とは？と言えば、常識として、妻であること、母であること、家庭を切りまわして家庭生活の中心になる女性姑になる年頃でなく、嫁とし姑の下に仕えると言う姿も一応「主婦」と言う言葉のニュアンスの中には感じ取れない、寧ろ、義父母に孝養を尽し、夫を助け、子供の養育に力を尽し、言うところの、良妻賢母を思い起させる言葉である。女は弱いが母は強い、と言うことが、よく言われて来たが、主婦は女としての最も場所を得た、女であると言うことのすべての意義と条件を備えた姿であると言えよう男が男らしく生きて行くことが望ましいように、女は女らしく生きて行くことが、女として生れて来た最高の生き甲斐であると思う。それは「主婦」と言う場に在る女性と言うことが言えよう、女の幸福それによってもたらされる、子供達の幸福、男の幸福、家庭の幸福、社会の幸福と言うように考えてくる時、我々在日同胞の女性が「主婦」と言う姿に於て、生きてほしいと切望したくなる、基督教信者の女性が世の中の女の世界にキリストを「証し」と言うことは、言葉でなく、何か慈善に協力すると言うようなことよりも、「女らしい女」女として幸福な姿であること主婦としての姿を抜きにして本当の意味の、キリストの証しはないのではないかと思う主婦らしくない女性が、何れほど雄弁に基督教を語り、何れほど活発に社会運動をしても、又熱心な宗教生活をして、自分はそれで或意味で、満足できるかも知れないが、女の世界で他人から見れば、それは真実に感動を与えキリストへと目を向けさせる「証し人」の姿ではないのではないか、そして自分自身も決して信仰の満足、人間としての幸福を味うているのではないと思う。昔は家を外にして、何かに熱中する女性を、偉い女、何々女史と言われたこともあったが、それでも一般的には余り感心されたものではなかった。人から見て余り感心しないものは矢張り神が御覧になっても、お喜びにならないものだと思う。聖書に「人々があなたがたのよいおこないを見て天にいますあなた

がたの父をあがめるようにしなさい」マタイ5:16とあるように、そこで在日大韓基督教会婦人会の活動として「主婦」活動の一つの目標として行けたらと願うのである。立派な主婦になりましょう。立派な信仰者とは、立派な主婦であると言う考え方を持つようになって、教会女性は、主婦女性と言うような考えを持つことが、今の教会の一つの大切なことであると思う。教会で教理のこと、聖書の勉強、祈りの実践、色々信仰を養うためには大切なことであるが、それと共に、何うしたら、夫の父母に孝養が尽せるか、夫を助ける妻として何うすればよいか、育児、教育について家庭の幸福、家庭の経済計画主婦の教養について、もっと向上し、研究し、勉強しようと言うような動きが、在日韓国人婦人、特に教会女性の中に強くなり上ってほしいものである。教会は信仰を養う場であると言うことが近頃真剣に考えられている今日、同じように教会は主婦をつくる場とならねばならないと思う

夫に対して悪妻であることは女としての人間破壊であり

子供に対して愚かな母であることは悲劇のもとであり、主婦らしくない女は、女としての人間疎外である。客観的に見て悪い嫁は、社会秩序の崩壊と言う大きな事にまでも及すことである。未婚の女性は将来、立派な主婦の座を、女性最高の成功の目標と考え、既に、主婦の位置にある女性こそ、もう一度、自分の位置を自覚し、主婦の座を、輝く幸福の座とすることにより自分も幸福になるとともに神を喜ばせ、すべての女性に伝道することになると言うことを考えようではないか、教会の中で、花嫁講座を持つ教会があると聞くが、我々の教会に主婦講座を開く必要が最も緊急ではないかと思われる。女性によって過半数を占められている我々の教会の現状を色々な角度で見るとき、一つのは、信仰に熱心な女性で、夫に悪い感じを与えていることにより、男性車への伝道が妨げられていると言うことを否定することのできないものがあると思う。教会全体が「男づくり」「女づくり」を人間づくりの具体的な目標としようではないか

(京都教会 田永福牧師)

ボンヘッファーの

- 4 -

神学的思考

3、ボンヘッファーの思想

ボンヘッファーはこれまでの全ての宗教を超越主義の神観を担ったものだを見て、これは新しい時代成熟した世界(デウス・ミューンディゲ・ゲヴォルデネ・ヴェルト)に於ては無用の長物になったつまり宗教の時代は既に過ぎ去ったと語った。このように隠れた神(デウス・アブスコンディトゥス)の代りにボンヘッファーは啓示された。キリストに於て顕われた神、即ち人間として受肉し十字架にかけられ、復活し給うたキリストを提示したのである。抽象的な観念としての従来の超越神に対する信仰というものは、キリストに於ける現実を(それも実際は唯一なるキリストの現実(ヴィルクリッヒカイト))以外にはな

いのにも拘らず)教会領域(基督教的、聖的、超自然的、啓示的)と、世界領域(この世的、世俗的、自然的、理性的)とに二分する二領域説をとっている彼は批判したのである。このような考え方から形而上学的な又個人主義的なという信仰の宗教的解釈というものが出来るといえるのである。このようなものは、この世に対する神の役割を弱体化せしめ、この世の上におられるキリストの、その支配を否定してしまうことになる。宗教の形而上学的解釈というものは、神を労働作假説(アルバイツヒュポテーゼ)に設定し、それを我々の不完全な認識の補充に於て、又宗教的人間が助けを求める所の急場凌ぎの神(デウス・エクス・マ

ヒナ)を作るものである。つまり人間の失敗を助け、解決できぬ諸問題を解決する為の神であり、常に人間の弱さを或いは人間実存の限界に於て助ける神であるという。このような神はこの世の中心より除去されており、生活の小さな役割のみをする以外になくなった故に、この世の主ではなくて、宗教の対象となりさがってしまったという。キリストは未解決の問題に回答を与える為ではなく、生それ自体の中で神を認識させる為に來られたの

である。次には個人主義的解釈というものによって、基督教を救援の宗教に作り変えてしまった結果、死後の永遠、或いはあの世(ダス・イエーンザイツ)に対する個人の靈魂の救援(ベルゼンリッヒェン・ゼーレンハイル)を強調してしまい結局は創造され、維持され贖われ、新たにされた此の世と共に福音というものが存在するという事実を忘却した

一統く

(岐阜教会 金承俊講師)

全協「指導者研修会」開催される！

「指導者研修会」が、全協と青年局の共催で、河内長野で開催された。1月2日から4日までの3日間にわたって、4回の講演と3回の分団→全体討議がなされた。講演は今年度の全協副題の「われわれの社会責任」にそって、今後の教育活動の指針としての「社会倫理」を重点的に掘り下げ、分団→全体討議では講演の原理的なものの学習、確認から具体的な活動プランまでが話し合われた。

この「指導研」は、長期的側面から見ると青年局のいわゆる「人材養成」としての意味を持つものであるが、それは同時に、全協活動としては「今：神がわれわれに望まれていることは何か」との主体的な現在の問いかけであり、模索であると云える。われわれはこの「指導研」で得た問題意識を引き続き拡大しより一層「社会倫理」の学習を深め、教友に問いかけて行かねばならないだろう。

第一回「指導研」の成果は

まだ明確ではないが、今後の教育活動にどの程度引き継がれるかによってそれは大きく左右されるに違いない。それ故にわれわれ全国に散らばっている全教育は、それぞれの状況に応じて「指導研」の問題意識を引き継がねばならないと云える。特に、3月の地方修養会には全教育が参加し「指導研」の問題意識に呼応し、それを深めて行かねばならないだろう。

尚、「指導研」への参加教育は27名、オブサーバー4名講師6名であった。また、この「指導研」の財政は宣教60周年記念実行委員会によって完全に支えられた。最後に、4つの講演の題名は左記の通りである。

- 1、宣教60周年における青年の役割 田永福
- 1、教会青年会の流れ 李仁夏
- 1、基督教社会倫理 竹中正夫
- 1、全協の使命 黄義生

西成あいりん地区で

クリスマスキャロリング

12月24日午後9:30分大韓西成教会に、日本キリスト教団鶴見橋教会、同西成教会、大韓西成教会の三教会の合同聖歌隊によるクリスマスキャロリングは50名の隊員によってきよしこの夜やもろびとこぞりて等のクリスマス讃美歌を歌いながら夜の商店街に、キリストの御降誕を伝えて歩いた。そのコースは、大韓西成教会に集って、トックを御馳走になり、10時近くになって西成の繁華街、鶴見橋商店街を通過、釜崎地区にある西成警察を通過して路上でのキリ

ストの御降誕は罪の赦しと人生への喜ばしい音信であるとの金元治牧師の説教を5・60名の人々がしんみりと聞き、クリスマスとはよいねえと言いながら、日本聖書協会のクリスマスリフレットをもらって帰っていった。この夜またリフレットは、一千枚であったが足りなかった。最後は鶴見橋教会で準備して下さったあついコーヒと、ケーキを御馳走になりながら楽しんでらんの時をもって、11時30分頃に解散した。



聖 書

一 日 一 生

マタイ 6:31~34

1、千里の道のりも第一歩から始まり、仕事を始めるという事は半分以上の仕事をしたことになることわざがあるように、始めの一日というのはそういう意味で大切であるが、一日一生というのは今日の正月の日を言うだけでなく一年中の毎日がこの一日一生の意味をもっているということである。「光陰は矢の如し、一寸光陰軽んずるべからず」との漢詩は一日の時間を大切にしようとの良い戒めである。孔子は朝道を聞いて夕べに死んでも惜しくない、といわれる。真理を知ることとは短い時間であってもそれが非常に大事であるといわれた。(詩90:4) 真理は又人生の真の道は主と共にあることであり、キリストはこのことを通して真理の道とされたのである。(ヨハネ14:6)

2、今日の聖句の中には人生問題がよくあらわされている何を食べようか、何を着ようかと心配するな、これらのものは神の国を求めることによってみな与えられるといわれている。(マタイ6:25~30) 一番必要な衣食住の問題を主は解決して下さいたのである(ルカ12:28~31) 私たちは明日の心配を今日借り受けてやるのである。明日という時間があってその時に心配しても充分である。私に与えられた今日というこの貴重な一日は実は私の一生なのである。今日一日を浪費することは一生を棒に振ることになるからである。(ヨハネ11:9)

3、詩人は主の大庭に住む一日は他の所での千年にも優ると言っている。(詩84:10) 主と共にいることは私たちが主より恵みを受けることであり、罪を遠ざけ善と義と救いの喜びを味う時間となるからである。(イザヤ8:8、10、エペソ3:4) イザヤは祈りの中で朝から主が我が腕となして下さい、と祈り(イザヤ33:2) エズラは毎日主の祭壇で祈ったのである。(エズラ3:4) ダビデは「わたしが生きている限りは主の恵みといつくしみとが伴うであろう」と主に喜こんで仕えた。(詩32:6) モーセはイスラエルの民

が主と共に恵みを受けることを祈った。その中で「あなたの力はあなたの年と共に続くであろう」といった

これはその生涯の一日一日が主の力によって支えられていることである。(申33:25) (西成教会 金元治牧師)

証 し

愛 の む ち

(4)

鈴木 一 志

私は心の底から悲しくなり「神様何故あなたは鞭の上に更に鞭をお加えになるのですかこのあわれな私は苦しんでいます」と言って祈り泣きました。いつも神の前に出る時は祈りと呻きが先に出て神に申し上げるべき言葉がなかなか具体的な形を取って出て来ずただ頭を抱えて平伏していました。神様が何だかこわい主人の様に思え、自分が神の愛から遠く引離された様な気がして淋しさが募る一方でしたそんな時でも増々聖書を熱心に読み続けました。或る時詩篇16篇を読んでいると「あなたは私の主、あなたの他に私の幸はない」と言う二節の言に強く目が止まり、何回も心の中で繰り返しては瞑想しました。その時、自分を幸にしてくれるものは神様以外には絶対ないのだ。心を喜ばせて下さるのも神様だけなのだと思える様になりました。ガラテヤ書6章14節に「しかし私自身には私達の主イエスキリストの十字架以外に誇りとするものは断じてあってはならない」とあります。先日の詩篇16篇2節の言と考え合わせて、自分の凡ての望みと喜びをキリストの中にだけ見出したいと強く強く望む様になりました。然し自分の心を深く深く探ってみると、私は神様以外に愛しているものが沢山ありました。私は幼い頃からとても絵が好きで、特に病床生活にあってはそれは私の心に潤いを与えてくれました。美しい色彩の美術全集を蒐集し、自らも月に4枚か5枚静物画や人物画を作り上げ、できた作品を眺めるのがとても楽しみでした。又音楽の方にも趣味を持っており気の置けない時や淋しくな

た時はベートーベンやシューマンの悲しい調べに耳を傾け感傷的な気分になっていました。毎週極った時刻にあるテレビのドラマなども楽しみにしてよくみました。聖書には神は嫉む神と記されてあります。

「あなたの神、主である私は嫉む神である」

(出エジプト記20章5節) 又キリストと神の子との関係は花婿と花嫁の間柄であると宣べています。もし私がキリストに贖われた者として当然に捧ぐべき愛情を他のものに奪われていたら……。音楽や絵を愛する事が神の嫉みを買っているのではないだろうか？……。自分は絵や音楽に興味を持っている事に誇りを感じているのではないだろうか？私は自分の心を探りつゝ神様に祈りました。「神様私は絵や音楽がとても好きですが、この事が神様と私の間を隔てているなら思い切って止めます。その代り聖言のみからもっともっとそれ等にまざる溢れるばかりの慰めと喜びを与えて下さい」と。祈った後、早速古本屋さんを呼び木箱一杯につまった美術全集を一切整理しました。レコードも同じ様に整理しました。テレビから楽しみを得る事を止める決心をし、神様の心から得られる本当の平安と慰めを期待しました。それから神様が祈りに答えて下さるのを一生懸命待ちました。午前と午後必ず書斎を掃除して私の心を清くして下さいと祈りつづけました。祈れば祈る程私は自分の心の中の癒し難い毒素がはっきり見えて来ました。又自分が如何に神のみこゝろを傷め続けて来た人間であったかと言う事も以前に

も増して自覚する様になりました。

エゼキエル書36章25節に

「私は清い水をあなた方に注いで凡ての汚れからあなた方を清め、又あなた方を凡ての偶像から清める」

とありますが、私はこの聖句を祈りの時神の前に持ち出し神様この聖言の約束を私の上に成し遂げて下さいと嘆願しました。

いつも私の為に祈り私を励まして下さるK先生が、一冊の本を借して下さいました。トマス・クツクの「新約の聖潔」と言う本でした。この本には罪に売られた人間の魂の苦しみに対して、神はどの様な救済の道を備えておられるかが聖言を引用して詳しく判り易く説明してあります。巻末にローマ書12章1節

「あなた方の身体を神に喜ばせる・生きた・聖なる供物として神に献げなさい。」と言う聖言を讀んで、あなた自身を神に献げよ、神はあなたを受取って下さる。そしてあなたの心に聖霊の賜物を与えて下さり、あなたの心に大きな喜びを与えて下さり、あなたの心にキリストへの愛を新たにして下さい、分裂なくあなたの愛情をキリストに注ぎ出す事ができる。と書いてありました。私はいつも自分の醜い心を見ては失望し、こんな心など献げ物として神に差出す事は到底不可能だと思ひ込んでいましたが神は憐み深い方です。私達の姿をよく知っておられ、あらゆる良き業は神御自身が一切確實になして下さいました。私は凡の事に於てキリストの血潮に徹底的に頼らねばならない事を強く強く示されました。こんな私でも神はキリストの血潮によって受取って下さる。と思った時は嬉しくて嬉しくてたまらなくなり、密室に入って「神様」を心で献げます。主の御用をする道具にして下さい。この足を洗います。汚れた場所には行かず神の命令される所に行きますように、この口を献げます。人の悪口や無益な冗談など語る事がありませんように神を讃美し、神の庭になる事のみを語る事ができるように、目を洗います。耳をささげます。と次々に思いつく儘に祈りました。又絵や音楽の賜物も自分を喜ばせる為だけにあるのではなく神様の為

に役立つなら用いて下さいと祈りました。それから自分の部屋を片付け所持品の大掃除を始めました。文学書、ランプ、ピンボンのラケット、石膏デッサン、パステル、絵具複製画のコレクション、音楽全集、山の様に積みましたそして通りがかりのクズ屋さんや定期的に集めにやつて来るゴミ屋さんに出しました。火事になったつもりで躊躇せず皆捨ててしまいました。その後久しぶりに入浴した後の気分の様に、とてもさっぱりとした気持ちになりました。心が軽くなって聖歌585番(ことごとみまえに、ささぐるこの身を、うけ入れたまえや主なるイエスよ)を思い切り歌いました。そしてローマ書6章11節の聖言

「この様にあなた方自身は罪に対して死んだものでありキリスト・イエスにあって神に対して生きている者である事を認むべきである」を強く信じ、コロサイ書2章6節

「この様にあなたは主キリスト・イエスを受入れたのだから彼にあって生きなさい」と言う句に励まされて、神様は必ず祈りに答えて祝福して下さいた事を信じて一生懸命つとめて讃美しつづけました。それから一週間たった。ある日の事折からその日は朝から天気が悪く雲が被いかぶさりどんよりとした日で、気分も重く、その上軽い頭痛がして塞ぎ込んでいましたが、心の中にふと「一志、おまえは神に愛されているのに何故そんなに沈んでいるのか？神が愛して下さる。お前にとってこれ程大きな幸はないではないか？何故もっと喜ばないのか、何故もっと讃美しないのか。と言う声が聴えて来ず様な気がしました。そしてその声が増々大きくなり、一々までも支配するに至り、私はうれしくて一人で何度も何度も神に愛されている、神に愛されているとつぶやいては感謝し、又つぶやいては感謝しました。

「私は限りなき愛をもってあなたを愛している」

(エレミヤ31章3節)

「私の愛の中に居なさい」

(ヨハネ伝15章9節)

この二つの聖句は私の特に好きな聖句でいつも心に強くとめて居りましたが、今は特に心に突き刺さる様に感じ、この聖句を思う毎に嬉しくて嬉しくてたまらなくなりました

(続 く)